

令和6年度 施設の自己評価について

～保育者の施設評価～

- ・個々の遊びや困りごとはないか意識して見るようにした。外部の講師との関りも良かった。
- ・園での様子と家庭での様子を話して共有する事が子どもの成長に対して重要と改めて実感した。
- ・保護者の対応で言葉のみでなく写真等を活用して保育の様子を伝えるよう心掛けた。
- ・支援が必要な子のサポート方法に考えさせられる事が多いので他の保育士のスキルを学び自分なりの成長に繋げたい。
- ・他のクラスのサポートに入る事で、他の子との関りや様子が見る事が出来た。
- ・玩具選びに苦勞する事がある。興味のある玩具がもう少し充実したら子どもにもいいのでは。
- ・さりげない言動が不適切保育と紙一重と感じた。気になる子に対する園全体のサポートや共有。
- ・丁寧な関りや繰り返しの言葉掛けで喜んでいる表情が見れた。これが担当制の良い所だと改めて感じ保育士も子どもも心が満たされると感じた。
- ・日々の保育に悩みながらも楽しく保育出来た。家庭での様子を聞くことで協力する事に繋がった。
- ・子育て1年生の母親にとって育児不安を受け止め丁寧に対応。母親の前向きな心を育てていく事も良い子育てに繋がると思う。
- ・0歳児クラスでは離乳食やアレルギー食に関わり、食の大切や咀嚼の重要性に触れた。
- ・柔軟な考えを持つようにする。変化は不安等もあるが、子どもの為の変化なら“やってみよう”という雰囲気を作れるように努力したい。
- ・個性のある子ども達の中で、1対1ではなく、集団（複数）での保育に難しいと感じる。色々な方法を試しながら落ち着いた保育を目指したい。
- ・支援が必要な子がいる中で、違う声掛けや援助の仕方がいいのか、補助の先生がもう少し丁寧に関われるのではないかと思うことが度々あった。
- ・保育士の人間性や対応の仕方が子どもに影響する。子どもの事を考えていると思う反面、やりすぎな保育や気になる場面があるとその都度言葉で伝えるようにしたがその伝え方が自分の課題。
- ・冷静に対応する事を心掛けた。1対1を大切にしたいが他の園児の事も考えるとなかなか難しい。
- ・他のクラスの補助に入る際は、子どもや保育士が心地よく過ごせるか様子を見るようにした。
- ・子どもに関する声掛けがマンネリしていると感じる。子ども自身がやる気を持ち行動出来るような声掛けを改めて考え工夫したい。
- ・根気よく伝えていく中“本当にいいのか”という思いもある。それぞれの個性を見て対応したい。
- ・噛みつきが続く子に対しその都度気持ちに寄り添い、共感し優しい口調で話すことが良いと分かり、繰り返し行う事で噛みつきも減った。共感と丁寧な向き合いが大切だと知れた。

～栄養士の施設評価～

- ・苦手な食べ物や量など人それぞれ違い個々に寄り添うのは難しいとは思いますが、子ども達にとって給食の時間が楽しみと思ってもらえるよう言葉掛けなど大切にしたい。
- ・誤嚥による窒息事故が起きている。乳幼児の発達、発育について学び直し、食材の大きさなど安全な給食が提供できるようしたい。

以上、保育士や栄養士からの施設の評価。これらの意見・評価を元に改善や向上を目指していきたい。